

ンチャー監督だったから、あまり強く3氏を責めるのは酷・・・？

『戦場でワルツを』のような重いテーマよりも日本の美しさとやさしさを評価した結果としての『おくりびと』の受賞と、『ベンジャミン・バトン』や『ミルク』のような重い人生ドラマよりもファンタジー色を含む力強い「ムンバイ・ドリーム」を評価した『スラムドッグ\$ミリオネア』の受賞には、世界的金融危機を引き起こした張本人たるアメリカの反省と希望が含まれているのかも・・・。

イギリス人監督がなぜインドで？

私はダニー・ボイル監督を、「それにしても怖かった」との言葉で評論を締めくくった『28日後...』(02年)ではじめて知ったが(『シネマルーム3』236頁)彼は1956年生まれの子イギリス人。そんな監督がなぜインドのムンバイでインド人俳優をたくさん使い、世界80カ国で放映されているという『クイズ\$ミリオネア』をネタにした映画を？この映画はごくわずかな製作費しかかけていない(1400万ドル=約14億円)そうだから、ひょっとしてダニー・ボイル監督は金欠病だったの？

プレスシートを読むと、そんな私の心配は全く的はずれであることがよくわかる。つまり、「普通じゃない人生」に惹かれている彼は、人生の中でも特に「極端」な経験を描くために、世界で最も過激な街であるインドのムンバイを選んで極端に過酷な経験を描き、同時に極端にロマンチックな愛を描いたわけだ。したがって、青年となった主役のジャマールについてもホントはインド人俳優を起用したかったらしいが、どうも「ボリウッド」で活躍する俳優たちは皆ハンサムで筋肉がしっかりついたアクションヒーロータイプだったらしい。その結果、イギリス生まれのひ弱そうな(?)デーヴ・パテルが主役に抜擢されたわけだが、一作にしてアカデミー賞最多8部門を受賞した作品の主演俳優の名声を得ることに。こんな場合心配なのは、第2作。野球の場合は新人王獲得の翌年は「2年目のジंकス」となるケースが多いが、映画の場合も同じような心配がある。さてデーヴ・パテル青年の次回作は？

ボリウッドとは？

あなたはエドワード・ジョージ・ブルワー・リットンの小説『ボンベイ最後の日』(1834年)を知ってる？私は小学生の時にこれを読んで、こんなすごい現実があるのかと驚いたが、この映画の舞台となっているインドのムンバイは旧称ボンベイのこと。中国映画は1980年代後半から世界的に認知され始めたが、中国に次ぐ人口11億人のインドでは映画産業がさかんで、今やハリウッドをしのぐ年間1000本近くの映画が製作されている(ちなみに日本は約400本)。ボリウッドとは、そんなインドの映画産業を指す、旧称ボンベイにちなんだ呼び方だが、インドの映画人の胸の中には「ハリウッド何するものぞ！」という気概が含まれているのかも・・・？

2008年はたまたま邦画VS洋画の興行収入が約6対4となったが、私の目には興行収入は上げていても中身の薄いTVドラマの延長のような作品も多い。何も深刻な社会問題作ばかりを望むわけではなく、1月22日に観た『罪とが罰とか』(08年)のように「映画は娯楽だ！エンタメだ！」とアピールする作品や、1月30日に観た出色の純愛モノ『ハルフウェイ』(08年)のような、良質で誰もが楽しめる邦画を次々と製作してほしいものだ。日本人俳優と違ってインド人俳優の多くは英語に堪能だから、アメリカとの共同製作は日本より有利。そんなハンディキャップも自覚しながら、今後日本はインドを良き競争相手として互いに切磋琢磨しなければ・・・。

スラム街のエネルギーに圧倒！

映画のタイトルの一部となっているスラムドッグとは、主人公であるムンバイのスラム街の負け犬ことジャマール・マリク(デーヴ・パテル)を指している。そんなスラムドッグが、『クイズ\$ミリオネア』で15問目となる最後の質問で2000万ルピー(約4000万円)を獲得できるかどうか、がこの映画の本筋のストーリーだ。クライマックスに向けて、なぜジャマールのようなスラムドッグが難しい質問に答えられるのかと疑問に思いながらも次第に緊張感が高まり、ある大事件が発生することに。

映画前半の見どころはスラム街そのものと、そこに住む子供たちの爆発的なエネルギー。映画冒頭に展開される、スラム街を駆け抜ける子供たちの爆発的なエネルギーをタップリと味わいたい。東京や大阪でも戦後間もない頃の闇市では、良くも悪くもこれと似たようなエネルギーがあったのだろうが、この映画にみるスラム街の大きさとその中で生きる子供たちのエネルギーにはとにかくビックリ。まずはこの映画が描くそんな前半の見どころをタップリと。

ジャマールが人糞まみれで爆走したのはなぜ？

とりわけそれが爆発するのは、映画スターのサインをもらうためのジャマールの爆走。幼少期も少年期も兄サリームと弟ジャマールはいつも行動を共にしていたが、サリームは少しいじわる？だって、せっかく憧れの映画スターがスラム街にやってきたのに、いたずら半分でジャマールを野外便所(?)の中に閉じ込めてしまうのだから。

いくら頑張ってもドアが開かないと悟ったジャマールがそこで選択したのは、真下のこえだめの中にまさかさまに飛び込むこと。こりゃ水洗トイレでないからこそできる芸当だが、今ドキの日本人の若者はそんな便所があったことすら知らないかも。スクリーンからは臭ってこないが、全身人糞だらけとなったジャマールが人垣をかきわけて大スターのもとへかけよりサインをねだったから大変。

スラム街に住むジャマールのこんな凄まじい爆走ぶりをみれば、「ケータイ命！」とばかりにケータイと向き合っている日本の子供たちはケータイを捨て、もっと野生に戻らなけ

れば・・・。

貧困と犯罪の中にも純愛が・・・

映画前半に描かれるヒンズー教徒によるイスラム教徒への襲撃シーンはショッキングで、ヒンズー教団体から映画の公開中止を求める動きも出たらしい。これによって、サリームとジャマールは母親を失ってしまうことに。その後、三銃士のアトスとポルトスを気取っている幼少期のサリームとジャマールが、ある日出会った可愛い女の子がラティカ。幼少期のラティカ(ルピナ・アリ)を一目見て、汚い身なりながらかなりの美人と思ったが、少女期(Tanvi Ganesh Lonkar)大人(フリーダ・ビント)になるにつれてますますその美しさに磨きがかかってくるうえ、ストーリー構成上大きな役割を果たすから、このラティカに注目！

ところでスラム街に住む孤児たちは貧困の中でどうやって生きていくの？そこには犯罪が付きものだがそれは悪ではなく、サリームやジャマールにとってそれは生きていくための当然の手段。スラムの子供たちはゆすり、たかり、かっぱらいそして盗み、騙しと、さまざまな犯罪に手を染めながら生きていく知恵をつけていくわけだ。したがって、ここでは日本のTV番組によく登場する聖人君子のようなお説教は全く無意味。ところが、そんな貧困と犯罪の中にも、ジャマールとラティカの純愛が育っていくから面白い。それまでずっと3人一緒に行動していたのに、ある犯罪がバレたことによってラティカとサリーム、ジャマールは別れ別れになってしまったが、ジャマールのラティカに対する思いには何の変化もなかった。しかしジャマールが『クイズ\$ミリオネア』に出演したのは、それによってラティカと出会えるかも考えたため。さて、その結果は？

なぜジャマールが逮捕？

映画冒頭、18歳のジャマールが警察に逮捕され尋問されるシーンが登場する。すぐ側のモニターTVに流れるのは、ジャマールが出演している『クイズ\$ミリオネア』のシーン。一体なぜジャマールは警察に逮捕されたの？それはスラムドッグにすぎないジャマールが、なぜ1問から14問まで正解し、1000万ルピーの獲得を確定し明日最後の挑戦に登場することができるのかについて、司会者のプレム・クマール(アニル・カプール)がきくと何らかのインチキがある、と疑惑をもったからだ。

ジャマールを尋問する警部(イルファーン・カーン)もジャマールのインチキを暴露すべく尋問を開始したのだが、スラム街で過ごした幼少期から始まるジャマールの人生体験はとにかく豊富。たとえば、アメリカの100ドル紙幣に描かれている人物の名前をスラムドッグが知っているはずはないが、なぜかジャマールはそんな質問にもバッチリ解答。それは一体なぜ？尋問の中でのそんな「対話」を聞いていると、ひょっとしてジャマールが正解を解答できたのは何のインチキもなし・・・？

この尋問風景とジャマールの体験談をみていると、人間が学ぶことができるのは教科書だけではなく実体験だということがよくわかる。やはり、子供の頃は塾通いばかりせず、外に出て遊んだり、いろいろな冒険体験をしなくちゃ・・・。

なぜ兄と弟は対極の人生を？

幼い頃は強い絆で結ばれていた兄弟が年をとり、異なる体験を積み重ねる中で、次第に価値観がズレていき、対極の人生を歩むことはよくある話だが、サリームとジャマールはなぜそんなことに？この映画を観ていると、少なくとも盗み=悪という概念は完全になくなってしまふ。また、観光ガイドに化けて欧米の観光客に本職以上のすばらしいガイドをしている姿をみると、スラムドッグの知恵に感心させられる。

幼い兄弟が生きていくために、子供たちを道具として使うある犯罪組織に取り込まれたのは仕方ないところだろう。ある日サリームの機転によって、目玉をつぶされそうになったジャマールを助けてこの組織から脱出できたのはラッキーだったが、以降2人がつねに狙われたのは当然。そんな中サリームは次第に大人の知恵をつけて銃を手に持ち、力とカネを追い求めていくことに。その結果、大人になった2人がやっと再会できた時、サリームはでっかいビル建設の現場におり、大きな力とカネを手にしていた。他方、ジャマールの方は少年期の純粋さと誠実さ、そしてラティカへの純愛をずっと失わないままだった。

人口1400万人の大都市ムンバイにおける、日本の高度経済成長時代をはるかに上回る巨大なエネルギーを感じながら、そんな2人の生きざまとなぜ2人が対極の人生を歩むことになったのかを、じっくり考えたい。

3つのストーリーが同時平行で

興行収入歴代第1位の『タイタニック』(97年)も、第81回アカデミー賞最多13部門にノミネートされた『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』(08年)も、年老いた主人公の現実のシーンと回想シーンをうまく織りまぜながら物語を展開させていたが、さて本作は？

本作は テレビで放映される『クイズ\$ミリオネア』のシーン、警察での尋問シーン、そして ジャマールとサリームとラティカの幼少時代から今日までの回想シーンの3つを織りまぜながら物語を進行させていく。もちろん時間的には が圧倒的に多いが、こんな手法によって観客は違和感なくジャマールとラティカの純愛を軸としたストーリーを堪能できるはずだ。

最後の質問は、日本人なら？

『クイズ\$ミリオネア』は15の質問に答えるもので、インドでは14問正解で1000万ルピー(2000万円) 最終の15問正解で2000万ルピー(4000万円)にな

るらしい。また日本と同じように3つのライフラインがあり、その1つが電話。スラムに育ち、何の教育も受けていないジャマールがなぜ14問まで正解することができたの？それが理解できず疑惑の目を持ったからブレイム・クマールは ジャマールを警察に送ったわけだ。また、ジャマールがなぜ14問まで正解することができたのかを回想シーンの中でダイナミックに描いたのが、この映画が監督賞、作品賞、脚色賞を受賞した理由。

しかして、最後の15問目の質問は？これは、本好きな日本人なら誰でもわかるような質問だったから私には意外。もちろん私はその正解を知っている。しかし、どうもジャマールはその答えを知らなかったようだから、ドロップアウト？いやジャマールはそんな道は選択せず、電話によるライフラインにかけたが、さてその電話の相手は？スリリングな展開の後、さてジャマールは無事正解し、2000万ルピーを獲得することができるのだろうか？

2009(平成21)年3月6日記

黒いうわさはウソ！子役にはご褒美も！

『スラムドッグ\$ミリオンア』は回想シーンがストーリー形成の重要な伏線になっているから、主人公たちの幼少時代を演ずる子役選びは大変だったはず。野外便所に閉じこめる兄サリームを演じたのがアザルディン・イスマイル、肥だめの中に飛び込み人糞まみれで爆走したのがAyush Mahesh Khedekar。他方、つぶらな瞳の可憐な少女がルピナ・アリだが、そこに黒いうわさが、コトの発端は英国のデイリー・テレグラフ紙の記事で、アザルディンとルピナの親たちが「十分な報酬を受け取っていない」とボヤいたらしい。これが子役の出演料不払い騒動に発展したわけだ。貧しいスラム街の子供たちをタダで映画に出演？そんな黒いうわさは、オスカー発表直前の09年2月21日監督、製作責任者、配給会社による

共同声明で明確に否定されたが、オスカー獲得合戦でも選挙と同じネガティブキャンペーンがあることにビックリ！

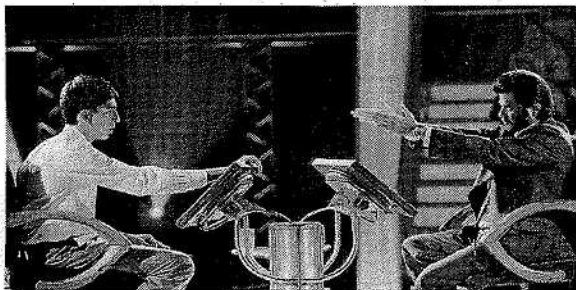
日本では密集市街地の整備が大テーマだし、北京では再開発のために胡同(フートン)が次々取り壊されたが、本作にみるムンバイのスラムはもっとひどい。しかして、違法建築だったアザルディンとルピナが住むムンバイ市内のスラムは09年5月に撤去されたらしい。しかし、本作で一躍大スターになった2人に路上生活はあまりにもかわいそう。そう考えたインド西部マハラシュトラ州政府は、2人にムンバイ郊外にある一戸40万ルピー(約80万円)のアパートをプレゼントしたとのことだ。ボリウッドがハリウッドに圧勝したのだから、それくらいのご褒美は安いもの！

2009(平成21)年6月5日記



「スラムドッグ\$ミリオネア」

(TOHOシネマズ梅田ほかで公開中)



© 2008 Celador Films and Channel 4 Television Corporation

インドパワーさく裂！ 興行も大成功！

十四億円の製作費で現
在までに全米だけで早く
も十数倍の興行収入を孕
ット！ シェアール(J)

したが、映画は米アカデ
ミー賞で作品賞をはじめ
最多八部門を受賞し、興
行的にも大成功！

「映画は今や完全に
ハリウッドを席巻？ ま
ずムンバイのスラム街を
疾走するスラムドッグ

験が、難問に対する正解
の源泉だったとは！ 貧
困と抗争の中でもしとの
純愛を守り抜く理想派の

(〇八年)の趣とは正反
対の、インド発のこつた
煮パワーと底知れぬ魅
力そして兄弟愛と純愛
物語の展開下での高らか
な人間讃歌を堪能した

少年はクイズのファイナ
ルアンサーで二千万ルピ
ー(約四千万円)に挑戦

年間十本を製作するイ
ンド・ムンバイ(旧称ボ
ンベイ)の通称「ボリウ

のエネルギーに圧倒され
る。特に人糞まみれで爆

走するJの姿は爆笑モノ
だ。ケータイ命！ の日
本の子供たちは彼らの野
性味から何かを学ばなけ
れば。

果 大人になった兄弟が
再会した時の価値観のズ
レは、必然的に悲劇的な
結末へ。
世界八十カ国以上で放
送されているクイズ番組
で、Jはどんな不正行為
を？ 警部とJとの息詰
まる人間ドラマの中で、
そんな疑惑が一つまた一
つと霧消していく展開は
秀逸だ。釈放され、スタ
ジオに登場したJに対す
る最後の質問は？ 電話
によるライフラインの架
電先は？ 日本人なら
概ねわかるはずの最後
の質問で、遂にJはドロ
ップアウト？ 外国語映
画賞受賞の『おくりびと』